

外見に宿る精神的防御機能

Fashion That Creates A Mental Defence To The Outside World

横山 菜都



外見と精神の乖離による不安感

外見のコンプレックス、精神的に違和感を感じていることを補うために容姿を作り変えたり、繕うことに世間はまだまだ否定的だ。見た目には精神的機能が存在し、人の心を支えていると考え、視覚化する表現を模索。不安と精神的防御をテーマにオートクチュールを制作した。

The Border Between Mental And Physical

The world still openly rejects the idea of adjusting one's appearance in order to remove a visual complex or a feeling of mental discomfort. I believe that appearance has a spiritual function and supports the human mind, therefore leading me down the path of expressing this through a physical form. I have produced some upmarket clothing that follows this theme of insecurity and 'mental defence'.



卒業制作を作るにあたって機能美ではない、着飾ることの必要性や見た目の機能について研究したいと考えた。

更に外見と精神の乖離についてリサーチを続けていく中で、『乳房再建』という本に出会う。そこには乳がんを患い乳房を全摘出、のちに再建した著者が「見かけも形も大事なんだ。たとえそれが機能していなくてもね。」という形成外科医の夫に励まされ「見かけは必要、必要は機能、精神的機能である」と綴る印象的なエピソードがあった。

このことから、見た目には精神的機能が存在し、確かに人の心を支えていると考え、精神的機能の表現方法の模索へと着手していくこととなった。

解説

正面・サイドのブリーツを肋骨や背骨のように配置し「こうありたい」という意志を、隙間だらけの針金のアーマーで敵意や好奇の目から自分を守りきれない繊細さを表現した。背中にはアクリルボーンを仕込み身体を変形させることで、沸々と湧き上がるような底知れぬ不安感を視覚的に演出している。